【様式２】

学校関係者評価書

学校名　佐賀市立城南中学校

１　学校関係者評価実施状況

（１）学校関係者評価実施日

・令和６年２月２２日（木）

（２）資料

・別紙資料

２　評価

（１）学校運営について

①　目標の妥当性及び達成状況

○　各項目の目標達成に向けて、教員の皆さんが積極的に努力されています。健康づくりの項目設定の内「健康に良い食事」の指標 80％については漠然とした数値であり検討を要するものであると思われる。

○　学校の教育目標に向け、重点目標として「学び合い」の考え方を軸とし、特別支援教育の考え方を取り入れた授業の実現、不登校を減らすため開発的生徒指導の充実、地域との連携の活性化を挙げており、目標として妥当と考える。

○　達成状況は、着実に改善しており評価できる。

○　業務改善・教職員の働き方改革の推進については、目標も達成状況も問題ないと思う。

○　重点目標については、生徒の実態等を踏まえており、妥当であると思います。その達成状況については、不登校未然防止以外はおおむね良好と思います。

○　妥当だと思います。子ども達の今後の為に身につけてほしい感覚です。すぐに結果が見えるわけではないでしょうが、この目標の継続を望みます。

○　学校教育力向上を目的とした地域との連携の活性化を図るという目標は妥当である。

○　コロナ禍を経て、学校や地域の多くの行事に参加者が増えたことは大変良かったと思う。

○　この目標が高いとか低いとか言える立場でもなく、客観的な評価や判断もつきません。

○　自己評価とはいえ、全項目について、達成度は横ばいか右肩上がりなのでよいことだとは思う。

○　学校運営に関する目標については、学校運営協議会の合議により決定されているので、妥当性には問題ないと思料する。達成状況の評価については次の通り。

◆　重点目標3項目についての評価

・　学力向上に関し、生徒及び保護者アンケートの結果、対前年比で良好な回答を得ており、これにより成果を挙げていると評価できる。

・　不登校対策については、成果指標達成はできなかったが、未然防止や改善に向けた取り組みの必要性が全職員へ周知されている。（教職員アンケートより）

・　地域連携については、コロナが収束へと向かうにつれ、地域行事も以前のように執り行われるようになった。生徒アンケートによれば、生徒の意識も以前と同様の肯定的な意見が見られた。また、保護者に関しては、教育効果を高めるための学校の地域交流等方針について、理解が前年より大きく浸透している。

◆　他、全般についての評価

・　教職員の働き方改革に関して、教職員の意識改革が進んでいると評価。

②　学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

○　適切かつ妥当なものといえる。なお、不登校の課題については SSW 等のあらゆる機関と連携を取られているとのことであるが、マンパワーの充実は必要不可欠であり、今まで以上に予算措置を求めなければならない。また、安全に関するものでは、日常の注意喚起と指

導が必要である。また、車道管理者の国・県・市に対し交通安全施設の充実について毎年要望する必要がある。

○　取り組みのうち、教育活動に関わるもの以外の項目について記載する。業務改善・教職員の働き方改革の推進：時間外勤務時間の削減など着実に進んでいる。自己評価結果も妥当。開かれた学校づくり：コロナ禍後、地域行事はジワリと回復してきた。地域へのボランティア参加も復活しつつあり、地域における評価も高い。自己評価結果は行事への保護者参加の成果目標（数値目標）を達成できず評価を下げざるをえないと考えるが、成果目標を再考しても良いのではないか。

○　取り組み状況も適切であり、自己評価も妥当であると思う。

○　教職員の不登校未然防止についての肯定的な回答が「96.6％」であり、適切かつ真摯な取組状況が伺えます。他の取組状況についても同様で、それらに対する自己評価結果もおおむね妥当と思います。

○　コミュニティ・スクールとしての認知が低いのはやや残念ですが、小学校では授業でコミュニティについて学ぶ機会と、集会で発表する機会があります。それが城南中でも形を変えて続いていると話をすれば、子ども達の理解は早いのではないでしょうか。

○　目標達成に向けて、適宜、学校運営協議会で進捗状況を確認している。自己評価結果については、目　標設定時から学校運営協議会が関わっており、評価しやすいようにできるだけ数値目標を掲げている。また評価結果については学校運営協議会に諮っているので妥当性に問題はないと思料する。

○　学校運営においても、やはりこのような報告書がなければいけないかと思うと、ある意味むなしくなる。評価するための文章を読んでも、「そうなんだ」と思うくらいで、妥当かどうかの判断はつかない。

○　学校行事や学年活動も含め、小中連携した出前あいさつ、クリーン大作戦、ドリームスクールなども無事に実施でき、ボランティア活動への生徒の参加率も高かったのは良かったと思う。

○　教員のコミュニティ・スクール承認度が下がっているのは残念。上がる努力を望みたい。

○　自己評価結果は妥当。

③　改善方策の適切さ

○　各種課題については、随時、運営委員や学校長から運営協議会に改善方策の提起があり、情報共有と改善策をともに検討することができているものであり、適切に運営されています。

○　コミュニティ・スクールを通じて、家庭、地域と一体となった教育活動が行われており評価できる。ただし、コミュニティ・スクールの認知度が保護者については8割を超えているものの、生徒が5割を切り、生徒への働きかけを考えましょう。

○　問題ない。

○　適切と思います。不登校未然防止については、何か妙案があればと思いますが。

○　コミュニティ・スクールの利点を知れば「城南でよかった」と思う生徒がより増える気がします。 母校に誇りを持つきっかけになります。

○　目標に係るアウトカムとして、例えば教職員の働き方改革については、教職員自身の意識改革が必要　なことから、在校時間の制限や、時間外勤務が多い教職員への管理職面談は非常に有効であったこと、また年休取得率も目標を大きく上回っており、教職員の意識改革が浸透していることが挙げられる。

○　今後は、毎水曜日の定時退勤日の定着が望まれる。

○　数字に表すことが分かりやすいとは思うが、数字にとらわれすぎずに具体的な対策を実行していってほしい。ただ、このようにまとめることで、「見える化する」ことは意味があると思う。

○　行事日程や内容を見直したり、メールシステムとネットを活用したりしての広報活動やアンケート調査をすることは、保護者(地域)のニーズや意識を知ることができ適当だと思う。

（２）教育活動について

①　目標の妥当性及び達成状況

○　学びあいを通じ、子供たちが生き生きと活動されていることを評価しています。

○　「学び合い」の考え方を軸とした授業の実現、開発的生徒指導の充実、地域との連携

の活性化の重点目標は、従前から言われていた「学力向上」「不登校対策」の目標として妥当と考える。達成状況は、いずれも単年度で解決できるものではないが、着実に改善しており評価できる。

○　学力の向上、心の教育、健康・体つくりについての、目標も達成状況も問題ないと思う。

○　●（県共通）や○（学校独自）に当てはまるものが多い中、◎（志を高める教育）が子ども達の直接の活動にないので、1つでも当てはまるものがあれば良いのではないでしょうか。現代人が一番身につけなければいけないのは「自分以外の人の為に目標を持ち行動をする」事です。その意味を持つ「志」を意識して、進めていってほしいです。

※　キャリア教育にあるキーワードの「夢」を「志」に変えてみると、個人の夢からもっと大きな視点での目標に変換できる気がします。

○　学校運営協議会の合議により決定されているので、目標の妥当性に問題はない。

○　生徒アンケートの結果より、いじめや道徳に関する人権教育、また食育について、大きな成果があった。また、学校行事への参加について理解度が浸透している。

○　「主体的な学習者を育む学習指導方法としての学び合い」や「不登校を減らす」という目標は毎年の継続目標であり、妥当である。今年度は学び合いの考え方を軸とし、特別支援教育の考え方を取り入れた授業の実現を図るとあり、ユニバーサルデザインを含め努力されたものと思われる。

②　学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

○　目標に向かった適切な取り組みであり、評価結果についても妥当なものといえます。

○　取り組みのうち、教育活動に関わる項目について記載する。学力の向上：授業参観等で職員による共通理解と実践が観察でき適切である。自己評価結果は家庭学習の成果目標（数値目標）が 49％と低いため評価を下げざるを得ないが、アンケート項目「自分で計画し・・・」の程度が生徒にとって不明確であったのではないかと考えられ、達成度（評価）は妥当である。

○　心の教育：いじめや不登校の早期発見、早期対応体制に向けた組織対応は適切である。自己評価結果は不登校で成果目標（数値目標）を達成できず評価を下げざるをえないと考える。健康・体つくり：生活状況や食に関する意識調査及び保健だよりなど組織的な働きかけも適切である。自己評価結果も妥当。

○　取り組み状況についても適切であったと思うが、自己評価が数値目標に到達していなくて低くなったのはやむを得ないかもしれない。

○　取組状況及び自己評価結果ともおおむね適切で、妥当と思います。ただ先生方の「わかる授業のための指導方法の工夫改善」について、令和2～4年度までは、「よくあてはまる」が 50％台、しかし、令和 5 年度は 27.6％と低くなっていることが気になります。自己評価が厳しいのか、他に原因があるのか、どうでしょうか。

○　不登校の生徒への先生の対応に頭が下がります。必ずしも学校に原因があるとはいえない中、その子の家庭と連携が取れる状況なのか、やや気になります。

○　心の教育の「キャリア教育」について。人気の仕事とマイナーな仕事の割合を決めて講師を探し、日常の暮らしでは出会えない方の話を子ども達に聞いてほしいなと思います。憧れが目標になり、目標があることで意欲的な行動が取れると思います。

○　学校評価全般に渡り学校運営協議会で議論しており、問題発生時も適切に対応していると思料する。

○　「学び合い」は取り組みはじめた1年生で意識が高く3年生では％は減っているが家庭学習への取り組みは増えてきているので受験に向けて頑張っている表れだと思う。

○　不登校生徒の％が増えてきたことは残念だが、未然防止、早期発見、早期対応に向けた組織対応は良く努力されていると思う。

○　いじめ防止についても組織対応が概ねできているとの回答が 100％だったことは大変良い。

③　改善方策の適切さ

○　不登校生徒への対応について、その原因などを探り課題解決にむけより配慮していければと思います。

○　学力調査等において学年や科目でばらつきはあるものの上向いているのは評価でき

る。生徒の振り返りアンケートでも授業がわかり学力を高めるよう努力しているとの回答が7、8 割と上がってきており適切である。

○　いろいろと工夫してあり問題ないと思う。

○　適切と思います。個人的には「学び合い」の授業と「生徒指導の三原則」を基盤にした授業について、興味・関心があります。

○　引き続き取り組んでいくことが大事だと思います。

○　道徳教育について、テーマを3学年共通としたことで理解が進んだと考えられる。
また、食育に関する成果は、弁当の日の設定やセミナー開催によるものではないか。このようなアウトカムが得られているのは、PDCA サイクルを学校運営協議会に諮られているからだと思料する。

○　この評価報告書で唯一のCがある心の教育ですが、全国的に不登校が増えているのと同じく、学校に通うことが絶対ではないという考えの表れなのか、親が子供を甘やかしているのか。ただ、あくまでも数字だけにとらわれてはいけないと思う。対策は子供だけでなく家庭や親へのサポートも大切だと思う。

○　アンケートをとったり、校内研修をしたり、いろいろ考えて取り組まれ、頑張られていて良いと思う。

○　いじめの発生時に生徒や保護者が、職員に情報提供しやすいようなシステムの構築を希望する。

3　その他学校に対する意見や提言

○　先生方の長時間労働の是正についてはより一層な対応が必要であると思います。今後も働も方改革などを通じ、先生方が人間的な生活を回復し、より豊かな教育活動に専念できる環境づくりをお願いします。

○　働き方改革や感染症対応等、日々の激務、お疲れ様です。どうか心身の健康にご留意ください。

○　佐賀県の子ども達の ICT 活用率が他県に比べてかなり低いということが新聞に載っていました。市議会でもそれについて取り上げられ、今後は学校と家庭で活発に利用できるよう教育委員会でも子ども　達のタブレットの取り扱いを変えるということでした。せっかくの教材がこれまで十分に活かせなかったのは残念でしたが、そういったものを扱う事を得意とする子どももいるでしょう。学校外に持たせるとなると心配は尽きませんが他県の活用方法を参考にして、子ども達のスキルアップに活かしてほしいです。私自身パソコンスキルが低いからこそ、子ども達には機会をもっと与えてほしいと思った次第です。

○　学習指導方法の中心に「学び合い」を掲げるのであれば、学力向上に係る評価の材料として、「『学び合い』の考え方を軸とした授業」の有益性等について、生徒や保護者、教職員アンケートの項目に追加すべきではないか。

○　一番の教育は、大人である私たちが模範を示すことだと思います。前向きに人生を楽しむことや、他者に真摯に接すること、社会に関心を持つこと、色んな事を見て感じる年代に、いい影響を与えられるように、家庭としても努力しますし、先生方にもお願いをしたいと思います。全ての子供には可能性があります。レッテルを張らずにきちんと見てあげて欲しい。

○　不登校については学校側からの働きかけがあっても登校に結びつかない場合もあるので、教職員側の心が折れないように配慮しつつ、不登校生徒へのかかわりの継続を望みます。

○　情報漏洩防止の自覚により、職員の校務サーバー利活用のパーセンテージが、上がったことは、評価に値する。

○　リモートワークや、他の職員のフォローのための、校務データー活用もみられ、活用の幅も広がってきている。今後，サーバーのみならず、クラウドの活用による作業能率の効率化や業務改善に期待する。

○　部活動を地域におろしていくために、地域の外部コーチをこの協議会に参加させることはできないだろうか。